

# 東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

## 令和3年度取組状況



令和3年11月

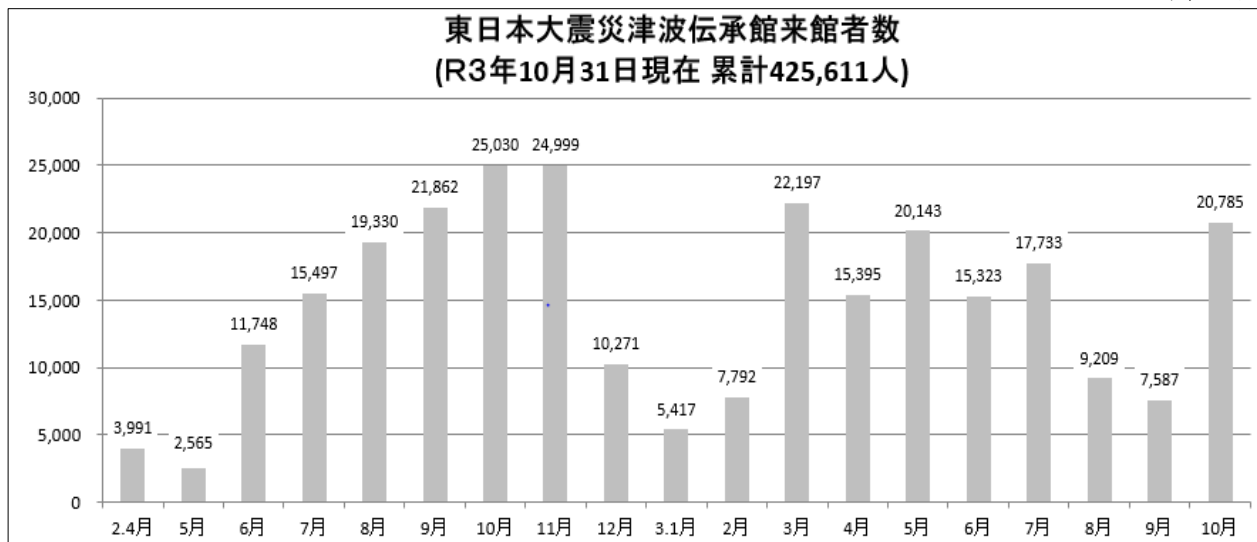
# 目 次

項 目	頁
<b>来館者の状況</b>	
1 来館者数の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	4
<b>事業報告</b>	
I 展示事業	
1 展示内容の維持管理	5
2 解説員の資質向上	6
3 安全な見学環境の確保	7
II 教育・普及事業	
1 教育旅行・校外学習の誘致促進	8
2 多様な来館者の誘致促進	9
3 セミナールーム等を活用した学習講座	10
III 広報宣伝事業	
1 情報発信	10
2 震災伝承施設の広域連携推進（3.11 伝承ロードとの連携）	10
IV 連携事業	
1 海外津波博物館との連携	11
2 大学との連携	11
<参考> 東日本大震災津波伝承館概要	12

# 1 来館者の状況

## 1 来館者の状況

単位：人



令和3年度月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
来館者数(A)	15,395	20,143	15,323	17,733	9,209	7,587	20,785	106,175
開館日数(B)	30	31	30	31	12	13	31	178
1日当たりの平均来館者数(A/B)	513	650	511	572	767	584	670	596

※1) 令和3年度の最多来館者数：2,605人(令和3年5月3日(月・祝))

2) 令和3年8月13日(金)～9月17日(金)「岩手緊急事態宣言」の発令に伴い休館(36日間)

令和2年度月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計
来館者数(A)	3,991	2,565	11,748	15,497	19,330	21,862	25,030	24,999	10,271	5,417	7,792	22,197	170,699	319,436
開館日数(B)	11	7	30	31	31	30	31	30	28	28	26	31	314	497
平均来館者数(A/B)	363	366	392	500	624	729	807	833	367	193	300	716	544	643

※1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年4月12日から5月24日まで休館。

2) 令和3年2月8日、9日は展示装置保守点検のため臨時休館。

3) 最多入館者数：2,067人(令和2年9月21日(月・祝))

令和3年度(10月31日現在)平日、土日祝日別来館者数

単位：人、日

	平日			土日・祝日			計	
	R3年度実績	R2年度実績	R2年度年間累計	R3年度実績	R2年度実績	R2年度年間累計	R3年度実績(計)	R2年度実績(計)
	(4月～10月末日時点)			(4月～10月末日時点)				
来館者数(A)	54,689	56,605	96,914	51,486	43,418	73,785	106,175	170,699
開館日数(B)	117	118	216	61	53	98	178	314
平均来館者数(A/B)	467	480	449	844	819	753	596	544

令和3年度前半は、ゴールデンウィークの1週間に1万人を超えるなど、一定の来館者数がみられたが、令和3年8月12日の岩手緊急事態宣言の発出により、8月13日から9月17日まで臨時休館した。

なお、1日当たりの平均来館者数は、平日が467人、土日祝日が844人となっており、土日祝日は概ね平日の1.8倍（前年度1.7倍）となっている。

## 2 区分別団体予約の状況

令和3年度区分別団体予約件数（10月31日現在） 単位：件、人

		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	116	5	121	4,891	202	5,093
	中学校	67	38	105	3,736	2,561	6,297
	高校	24	36	60	1,387	1,947	3,334
	大学	7	13	20	161	375	536
	小計	214	92	306	10,175	5,085	15,260
学校以外	観光ツアー	21	336	357	567	3,049	3,616
	海外（観光含む。）	0	2	2	0	31	31
	地域の団体	47	10	57	988	202	1,190
	取材・報道	11	7	18	28	29	57
	国（省庁、議員）	6	7	13	48	68	116
	自治体	11	16	27	174	133	307
	議会	0	0	0	0	0	0
	議会（県外）	0	2	2	0	29	29
	県（部局、県議会）	10	0	10	96	0	96
	その他	25	40	65	292	721	1,013
小計	131	420	551	2,193	4,262	6,455	
合計		345	512	857	12,368	9,347	21,715

※ 令和4年3月31日までの予約件数（キャンセルを除く）

区分別にみると、学校では、県内は小学校（116件）による利用が突出して多いが、反対に県外は小学校（5件）が最も少なく、中学校（38件）、高校（36件）による利用が多い。学校以外では、県内は地域の団体（47件）による利用が最も多く、県外は観光ツアー（336件）による利用が最も多い。

### 3 都道府県別団体予約の状況

令和3年度都道府県別団体予約件数(10月31日現在)

単位：件、人

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数
北海道	12	464	東京都	276	2,578	奈良県	1	6
青森県	15	672	神奈川県	18	241	岡山県	4	98
岩手県	345	12,368	新潟県	2	189	広島県	1	3
宮城県	32	1,214	山梨県	5	200	山口県	1	20
秋田県	4	147	長野県	2	274	愛媛県	1	5
山形県	12	905	岐阜県	2	53	高知県	1	25
福島県	4	170	静岡県	4	84	福岡県	3	36
茨城県	28	572	愛知県	30	257	佐賀県	1	9
栃木県	2	108	滋賀県	1	10	熊本県	3	36
群馬県	1	20	京都府	1	105	鹿児島県	1	51
埼玉県	8	230	大阪府	23	206	海外	2	31
千葉県	1	30	兵庫県	10	298	計	857	21,715

都道府県別では岩手県(345件)が最も多く、次いで東京都(276件)、宮城県(32件)の順となっている。

令和3年度都道府県・区分別団体予約件数(10月31日現在)

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	254	岩手県	116	岩手県	67	岩手県	24
2	大阪府	22	山形県	3	北海道	8	山形県 山梨県	5 5
3	岩手県	21	青森県	2	宮城県	7	青森県 宮城県 埼玉県	4 4 4
4	愛知県	18	—	—	青森県	4	北海道	3
5	その他	42	—	—	その他	19	その他	11
	計	357	計	121	計	105	計	60

区分別にみると、観光ツアーでは東京都(254件)が最も多く、学校ではいずれも岩手県が多い。

## 2 令和3年度取組状況

### I 展示事業

#### 東日本大震災津波伝承館の運営

新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、常設展示、解説員による展示解説及び企画展示を通じて、来館者に効果的な学びの場を提供している。

### 1 展示内容の維持管理



#### (1) 常設展示の更新

<p>高田松原津波復興祈念公園の供用開始に対応した案内表示及び津波避難経路図を更新した。 (9月)</p>	 <p style="text-align: center;">更新した津波避難経路図</p>
---	---


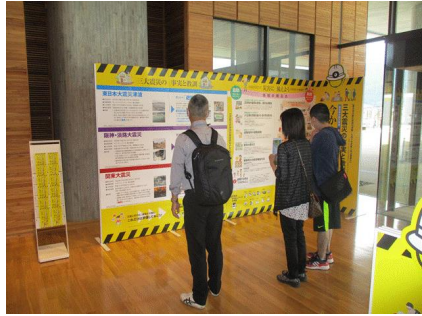

#### (2) 企画展示の開催

当館主催及び関係団体との共催による企画展示を次のとおり実施している。

#### 【開催実績及び予定（10/31 現在）】

	主	共	展示内容・期間等
1		①	<p>写真展「ふるさと気仙に生きて」 (4/24～5/9、(株)東海新報社との共催)</p> <p>被災地であるだけではない、気仙地域の美しい風景の写真展示を通じ、復興へと歩いていくまちと自然、人々の姿を発信。</p> 
2		①	<p>第1回企画展示 東日本大震災津波と三陸ジオパーク (6/11～7/11)</p> <p>三陸ジオパークの視点から、三陸の大地と海の成り立ちや魅力、県内各地の震災遺構を解説し、震災津波への理解と三陸への訪問を促す展示を実施。</p> <p>また、期間中に以下の関連事業を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドと巡る三陸ジオパーク (6/13、14人参加)</li> <li>・親子deじっけん教室 (6/13～計10回、40人参加)</li> </ul> 



3	②	<p>写真展「東日本大震災津波と海上保安庁～経験から伝承へ～」 (8/7～29、釜石海上保安部との共催)</p> <p>震災津波当時の海上保安庁による行方不明者の捜索や海上交通の復旧活動等の写真展示により、自然災害への備えの意識を新たにする機会として開催。 ※岩手緊急事態宣言の発出による臨時休館のため8/12を以て一旦終了し、11/19から再開催(～12/5)。</p>	
4	②	<p>第2回企画展示 三大震災の事実と教訓 今から始める防災・減災 (9/25～10/24)</p> <p>関東大震災、阪神・淡路大震災との比較を通じて東日本大震災津波の実態を浮き彫りにするとともに、その事実と教訓を踏まえ、「自分でできる」「地域で協力し合う」災害への備えを考え、実践を促す展示を実施。(監修協力:東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)</p>	
5	③	<p>東日本大震災津波パネル展「東日本大震災における航路啓開」 (10/29～11/12、(一社)日本埋立浚渫協会東北支部との共催)</p> <p>東日本大震災津波により閉塞した三陸沿岸地域の港湾の航路啓開活動の写真パネルを通して、震災津波の事実を思い起こし、その教訓を活かした津波防災を後世に伝える機会として開催。</p>	
※以下、予定			
6	③	第3回企画展示 いわたの復興教育 (12/11～1/9)	
7	④	第4回企画展示 いわた三陸沿岸の今 (3/15～4/17)	

## 2 解説員の資質向上

解説員に対する研修を次のとおり実施した。

R3年5月24日(月)	・パークガイドの案内によりタピック45、気仙中学校見学
25日(火)	今年度から運用が開始されたパークガイドにタピック45、気仙
26日(水)	中学校を案内してもらった。
28日(金)	*開館日に行ったため、4～5人ずつ参加し実施した。 *解説員の他、伝承館職員も参加。参加人数19人
5月31日(月)	・解説員(新人) おしゃっち(大槌町)いのちをつなぐ未来館(釜石市)視察
8月20日(金)	・解説員(新人)研修 展示内容確認(臨時休館中)
～9月2日(木)	他の解説員が手分けをして、新人解説員に展示内容を教授する。

<p>9月6日(月) ～9月27日(月)</p>	<p>・沿岸市町村研修（臨時休館期間を利用して実施） 沿岸市町村及び遠野市, 住田町について調査・発表を行い、基本情報に精通することで、沿岸地域へのゲートウェイ機能の向上を図った。</p> <p>【調査内容】 自治体基本情報（人口、観光、被害の概要）、当館の主な展示、震災伝承施設</p>
------------------------------	--

### 3 安全な見学環境の確保

#### (1) 災害発生時における来館者及び職員の安全の確保

各種訓練を次のとおり実施した。

<p>避難行動フィールドワークの実施 実施日：令和3年6月21日 参加機関：道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、陸前高田市、大船渡土木センター 計16名 内容：公園内の4つの避難経路を徒歩で誘導用の看板を確かめながら課題を探る。</p>	
<p>さすまた操作訓練の実施 実施日：令和3年8月6日 参加機関：東日本大震災津波伝承館 内容：大船渡警察署署員を招き、不審者と対峙する場合の対処について、“さすまた”を使用して講習を受けた。</p>	
<p>消火・避難訓練の実施 実施日：令和3年9月16日 参加機関：道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館 計28名 内容：高田松原国営追悼・祈念施設管理棟の消火・避難訓練</p>	
<p>合同地震・津波避難訓練の実施 実施日：令和3年11月5日 参加機関：道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、陸前高田市防災局防災課、盛岡市立中野小学校、花巻市立西南中学校、3.11みらいサポート、来場者 内容：地震・津波を想定し、来場者を一時待機場所へ避難誘導するとともに、指定避難所の気仙小学校まで徒歩で避難誘導する。 参加者数：約400名（一時待機場所への避難誘導訓練）</p>	



## (2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止

三密（密閉・密接・密集）環境の排除、座席等の消毒、マスクの着用、検温及び手指の洗浄・消毒を極力実施するなど、館運営における基本的な感染拡大防止策の徹底を図っている。

### 新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備による常時換気、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、シアター席等の間隔確保等

## II 教育・普及事業

### 1 教育旅行・校外学習の誘致促進

#### (1) 県内外の学校に対する周知

ア) 県内の小中学校（いわての復興教育スクール）の訪問

いわての復興教育スクール推進校を中心に、復興教育の実績や予定、当館の活用見込や評価、課題等を聞き取り、来館促進や展示・解説の改善に反映させていく。

※ 感染症拡大防止の観点から、訪問回数を縮小して実施。

訪問実績(5/26～11/15)

単位：校

	小学校	中学校	高等学校	支援学校	計
内陸	6	3	1		10
沿岸	2	2	1	2	7
計	8	5	2	2	17

イ) 教員現地研修会の実施

実施日等：令和3年8月5日（木）参加者 19名  
8月6日（金）参加者 12名  
修学旅行や校外学習における伝承館の利用促進を図るため、県内の教員（小・中・高・特別支援学校）向けに現地研修会を開催した。  
（同内容を2日間実施、伝承館内及び祈念公園内を解説付見学）



#### (2) 震災学習プログラムの開発（校種等に対応した教材の作成と活用）

予習・復習に対応した震災学習プログラム教材として「震災津波伝承ノート」（中高校生用）、「震災津波学習ノート」（小学生用）を作成した。

震災津波の経験、記憶がない児童にも理解が深まるよう、校外学習・教育旅行のために来館する生徒への配付を中心に活用を図っている。

ア) 「震災津波学習ノート」の作成

##### ① 作成方針

- ・見学中や事前事後学習にて内容の理解がより深まるよう、伝承館の展示で利用する写真や資料を入れた。
- ・伝承館として伝えたい内容が児童へ定着しやすいよう、問題形式の内容とした。

② 内容

- ・問題形式の学習ノート \*展示を見て解くもの、自分の考えをまとめる問い
- ・見学を終えて（振り返り）
- ・自分の家からの避難経路を考える

③ 配布開始時期：令和3年6月

イ) 令和3年度配布状況（11/9 現在）

	震災津波伝承ノート（中高校生用）	震災津波学習ノート（小学生用）
表紙		
印刷部数	10,000部（6月）	10,000部（6月）
配布実績	127校 8,110部	56校 1,812部

ウ) 使用した学校からのアンケート結果

①活用方法

- ・修学旅行のまとめとして使用した。新聞づくりのとてもよい資料となった。（学習）
- ・事前にどのような展示があるのか確認させた。（伝承）
- ・帰校して、まとめの時間に活用した。見学した内容を振り返ることができ、自由記載で生徒一人一人が感じたこと、考えたことを知ることができた。（伝承）

②感想

- ・施設の全体像を知る上で大変役立った。（伝承）
- ・自分が今できることまで考えさせられるノートでとても役立った。（伝承）
- ・次回の見学に伺う際は事前にいただき、事前学習に使用したい。（学習・伝承）

2 多様な来館者の誘致促進

高田松原津波復興祈念公園等を活用した誘客促進

伝承館と高田松原津波復興祈念公園パークガイドが連携して予約団体を案内できるよう、パークガイド団体予約受付事務局（一社マルゴト陸前高田）と定期的に情報共有を図っている。

### 3 セミナールーム等を活用した学習講座

避難所運営ゲームHUG（H=避難所 U=運営 G=ゲーム（ハグ））を通じた避難所運営学習の指導を行った。

対 象：岩泉町立小川中学校 10人  
 実施日：令和3年6月2日

対 象：一関市立川崎小学校5年生 21人  
 実施日：令和3年10月1日



一関市立川崎小学校 HUG の様子

岩手県立野外活動センター職員に対しHUG実習の指導を行った。

対 象：岩手県立野外活動センター職員 6人  
 実施日：令和3年5月26日  
 場所：岩手県立野外活動センター研修室



### III 広報宣伝事業

#### 1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ及び必要に応じ県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図っている。

(2) ホームページ・SNS を活用した情報発信

当館公式ホームページの充実とともに、当館周辺の日々の動向についてインスタグラム・ツイッター等を活用して積極的に発信している。

・ ツイッター、インスタ、フェイスブックのフォロワー数（令和3年10月31日時点）

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	3,082	2,254
Instagram	420	1,117
Facebook	220	870

## 2 震災伝承施設の広域連携推進（3.11 伝承ロードとの連携）

3.11 伝承ロード推進機構が作成するパンフレットの配架、見学ツアーを受け入れた。

- ・3.11 伝承ロードのパンフレット（3.11 伝承ロード全体版、岩手県版、福島県版、宮城県版）をエントランスに配架した。

来館日	来館者数	備考
令和3年7月16日	44名	全日本建築技術協会会員
令和3年10月18日	13名	東京に本社がある仙台支社長を会員とする団体



エントランスでのパンフレット配架

## IV 交流・連携の推進

### 1 海外津波博物館との連携

令和3年度に実施を予定していた「三陸 TSUNAMI 会議(仮称)」は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、再延期（実施時期未定）することとなった。

### 2 大学との連携

当館の運営等に関し随時、連携・協力をいただくほか、企画展示の開催や館内講座等の実施に際して必要に応じて指導・助言を受けた。

- ・ 伝承館の展示全般についての指導・助言（岩手大学理工学部南教授）
- ・ 企画展示の監修、館内展示の指導・助言。（東北大学災害科学国際研究所柴山准教授）
- ・ デジタルアーカイブ学会第6回研究大会（会長：東北大学災害科学国際研究所長）において、伝承館の事例報告を実施（令和3年10月15日）。
- ・ 岩手大学学生の見学受入（理工学部及び教育学部）

## <参考> 東日本大震災津波伝承館概要

### 1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

#### IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

##### 1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

##### 取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

##### ① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

### 2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

### 3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

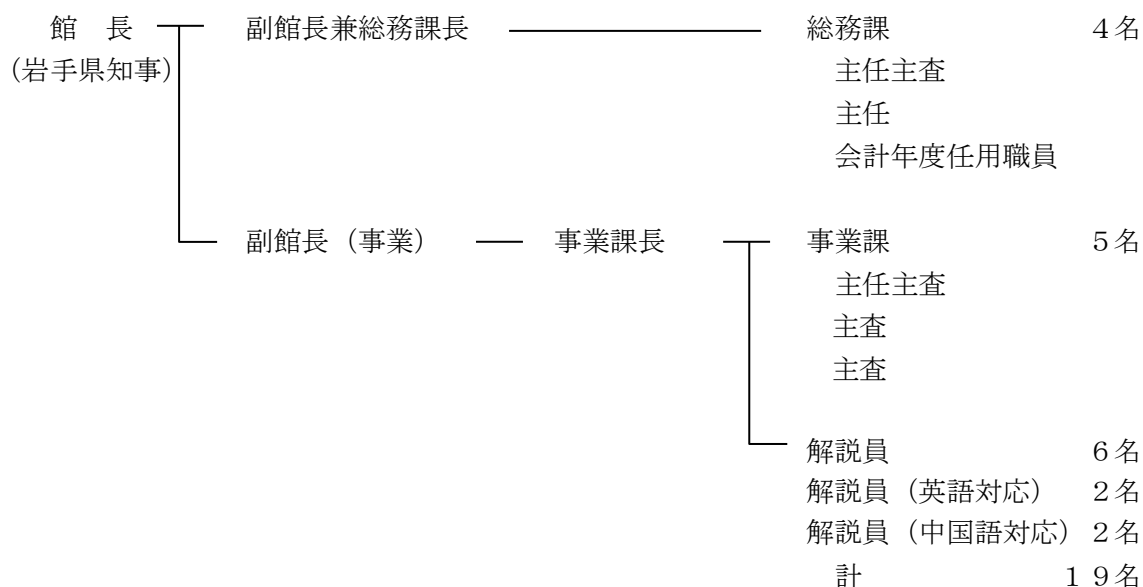
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

### 4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m <sup>2</sup> のうち展示面積 1,155 m <sup>2</sup>
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻 16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

## 5 組織体制（令和3年4月1日現在）



令和3年11月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて<sup>つなみ</sup>TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地  
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>